

みなさんこんにちは。

まだまだ寒い日が続いていますが、春はだんだん近づいています。

四月になると、みなさんは新しい学年や、その上の学校など、新しい世界に飛び出していくことでしょう。

県立文化施設では、そんなみなさんを応援するため、様々な企画を用意しています。新しい施設もオープンしますので、たくさんの方のお越しをお待ちしています。



山梨近代人物館が  
まもなく開館します

みなさんは、若尾逸平、雨宮敬次郎、根津嘉一郎、小林一三という人たちを知っていますか。

武士の時代である江戸時代がおわり、文明開化と呼ばれた明治が始まります。その時代に、電気や鉄道などの事業に取り組んで、現代の日本の始まりを作った人々です。この人たちは、山梨県の出身なのです。

それから、地下鉄を一番始めに走らせた人も山梨県出身の人です。

早川徳次という人で、その人は、当時「東京の地下に、くもの巣のように地下鉄が走る時代が必ずくる」と言っていました。

こうした山梨県出身の人物や県外出身で山梨県の発展のためにがんばった人物の功績などを紹介する「山梨近代人物館」が、四月二日、山梨県庁舎別館の中にオープンします。



山梨近代人物館人物紹介室イメージ

県庁舎別館は、昭和五年に建てられました。今から八十年以上も前です。建物を正面や上から見ると「山」の字の形になっていたり、軒瓦には県のマークがデザインされていたりと、郷土色が豊かな建物です。当時の建物としての価値が高いことから、平成二十一年に、県の文化財に指定されました。

こういった建物ですから、明治から昭和の戦争前に活躍した山梨県のゆかりの人物を紹介するにはぴったりな建物です。

更に、当時の雰囲気を感じてもらおうため、当時の県知事の部屋や、正庁と呼ばれる特別な行事を行う部屋も再現しました。

県庁舎別館のとなりの防災新館には、山梨県の地場産業でもある「宝石」の加工をテーマにした「やまなしジュ

エリーミュージアム」や、となりの甲府城趾の「石垣展示室」もあります。

こうした見どころと合わせて、山梨近代人物館には是非来てください。

観覧は無料で、毎月第二と第四火曜日、年末年始は休館します。

お問い合わせは（三月末まで）山梨県教育委員会学術文化財課〇五五―二二三―一七九〇まで、お願いします。

### 県立博物館

開館10周年記念特別展

「微笑みに込められた祈り

円空・木喰展



円空は、江戸時代の初め寛永九（一六三二）年、美濃国（今の岐阜県）に生まれました。三十二歳で仏像を彫り始めて、元禄八（一六九五）年、六十四歳で亡くなるまでの三十年余りの間に、たくさんのお仏像を彫り、遺しました。鑿や鉦で彫った力強く個性的な仏像が多く、十二万体を彫ったともいわれ、現在、五千四百体余りが確認されています。



円空作 不動三尊像（清瀧寺）

一方、木喰は、享保三（一七一八）年に甲斐国丸畑（今の山梨県身延町）に生まれました。二十二歳で出家し、五十六歳になつてから修行の旅に出て北は北海道有珠山の麓から南は九州鹿児島まで日本全国を巡りました。

仏像を彫り始めたのは、六十歳を迎えてからのことで、九十三歳で亡くなるまで数々の仏像を生み出し、現在に残されている数は七百二十体ほどが確認されています。

その仏像は、円空の鋭い彫りとは対照的に丸みのある仏像が多く、独特の微笑みをたたえた木喰仏は「微笑仏」と呼ばれ、今でも人々を魅了しつづけています。



木喰作 子安観音菩薩像（徳蔵寺）

円空・木喰の名はその死後しばらく忘れ去られていましたが、二十世紀になって、地方のお寺や神社に残されていた彼らの木像に魅せられた研究者や美術作家らによってその業績が掘り起こされました。

今回の展示では、日本各地で修行し、それぞれの土地で信仰の対象として、今も大切に守り伝えられている円空と木喰による新発見・初公開の木彫像およそ二百五十点を展示。個性的な造形を生み出した二人の魅力を紹介します。

開催期間は、三月二十八日（土）から五月十八日（月）までです。

### 県立考古博物館

「わたしたちの研究室展示会」



考古博物館では、毎年「わたしたちの研究室」と題したコンクールを実施しています。これは山梨県内の小・中

学生のみなさんが考古学や歴史を学ぶ楽しさを知る機会となるよう、夏休みなどに取り組んだ研究成果を募集し、優秀作品を表彰、応募いただいた作品を紹介していくものです。

第十二回となる今年度の応募作品は、実際にその場を歩き、実物を見て研究したものが多く、自分たちが住む地域の、昔の人が生活した跡（遺跡）について、わかりやすくマップに書き込み調べあげた作品や、昔の道「甲州街道」と現在の道を歩いて比較し、周辺の歴史や発見をまとめた作品が目を見ましました。ほかに、土器づくりをふまえた研究や、堅穴住居づくりの様子をまとめたビデオ、普段何気なく目にする道祖神について調べたレポートなどもありました。

考古博物館では、三月一日（日）まで応募された研究成果をすべて展示します。これらの研究作品を見て、皆さんも自分たちの住む身近な地域の歴史や遺跡を研究してみませんか。思わぬところに新たな発見があるかもしれませんよ。



今年度の応募作品



審査会の様子

**県立文学館**

「田中冬二展 なつかしい日本の風景」



田中冬二という詩人を知っていますか？  
一八九四（明治二七）年、福島県に生まれた冬二は、七歳で父を亡くし東京の祖父や親戚の家で育ちました。少年時代から文学に興味をもち、銀行に勤めてからも、仕事をしながら詩を発表する生活を続けました。「青い夜道」をはじめ、生涯に十八冊の詩集を出しています。



田中冬二 (1894~1980)

転勤で全国各地を回り、旅好きだった冬二にとって、山梨は「好きな県」のひとつでした。富士五湖や早川町の奈良田、八ヶ岳山麓などを訪れて、いくつもの詩を残しています。「本栖村」という詩の一節を紹介しましょう。

唐辛の花のやうな夜空が  
山を下りて来て  
暗いランプの座敷を  
白い目でのぞきこんでみる  
つめたい山の匂ひが  
粗い手でランプの火をなでてみる

まだ電気が通っていない、ランプの明かりが照明だった時代の夏の夜です。「唐辛の花」のような夜空とはどんな空でしょうね。冬二の詩はやさしい言葉で、なつかしい時代の日本の風景や

人々の暮らしをうたっています。今も多くの人たちに愛されている冬二の詩の世界をご紹介します。開催期間は、四月二十五日（土）から六月二十一日（日）までです。

**県立美術館**

「夜の画家たち  
— 蝋燭の光とテネブリスム —」



西洋美術の頂点と呼ばれたバロック期のその時期の特徴的な技法に、一筋の光や、炎や灯の光によって、夜や闇の背景から、対象を浮かび上がらせるテネブリスム（明暗主義）があります。イタリアのカラヴァッジョ、フランスのジョルジュ・ド・ラ・トゥール、オランダのレンブラントといった画家たちは、光と闇をあやつり劇的な場面を演出しました。

こうした明暗画法（テネブリスム）は、近代になって初めて西洋美術に出会った日本人画家たちを虜にしました。その作品を見た山本芳翠はその画が「全く光りのついていないようだ」と感じ、自らもこの新しい表現に取り組みます。

江戸時代の司馬江漢や亜欧堂田善、そして時代を先取りした歌川広重にはじまる浮世絵師たち、明治時代の中丸精十郎、高橋由一、山本芳翠らの洋画家たちから昭和の高島野十郎にいたるまで、日本のテネブリスムとも言える独自の明暗表現を手がける「夜の画家たち」が続いています。

この展覧会では、二つの文化の間で生まれたかつてないこの闇と光の世界を、ヨーロッパの巨匠ジョルジュ・ド・ラ・トゥールの作品などとも比較し

ながら、明らかにします。開催期間は、四月十八日（土）から六月十四日（日）までです。



なかまるせいじゅうろう いこくふうけい せいさくねんふしょう やまなしけんりつづつじゅつかんぞう  
中丸精十郎 《異国風景》 制作年不詳 山梨県立美術館蔵



**県立図書館**  
「資料紹介展示  
『子どもにすすめたい本2015』」

皆さんは一年間にどのぐらいの本が出版されるか知っていますか？  
答えは約八二、六〇〇冊です（『出版年鑑』）。これらのたくさんの中から、県内の図書館員がおもしろい、役に立つ、感動するなど、様々な理由で、みなさんに読んでもらいたい本を一一〇冊選びました。  
資料紹介展示「子どもにすすめたい本2015」では、これらの本を集めて紹介します。いろいろな本を実際に手にとって読んでみませんか。  
授業で活用できる本、読み聞かせに使える本などをお探しの先生方も、ぜひ参考にご活用ください。  
開催期間は、四月二十二日（水）から五月十二日（火）までです。

※四月二十四日（金）、二十七日（月）、五月七日（木）、十一日（月）はお休みします。観覧料は無料です。



さくねん てんじ ようす  
昨年の展示の様子



**県立科学館**  
「大科学実験  
— 山梨県立科学館 —」

NHK Eテレ（教育テレビ）で放送中の、大規模な実験で自然界の法則を検証・解明していく人気番組「大科学実験」が、山梨県立科学館にやってきます。  
会場には、番組で実際に使った道具や装置が大集合します。  
輪ゴムを十三万本使ったヘリコプター「ゴムコプター」や、二本のロープを交互に引っ張って人形を五メートルの高さまで持ち上げることに挑戦する「つな引きエレベーター」など、実験道具や装置を実際に目の前で操作したりすることで、小学生から大人まで科学の楽しさと奥深さを感じることが出来ます。  
開催期間は、三月十四日（土）から四月五日（日）まで、場所は、県立科学館多目的ホールです。  
入館料のみで体験・観覧することが出来ます。



ゴムコプター

先生方へ  
「博学連携のお知らせ」  
県立美術館、博物館、考古博物館（埋蔵文化財センター）、文学館、科学館

博学連携の推進のため、県立美術館、博物館、考古博物館（埋蔵文化財センター）、文学館、科学館では、教育プログラム開設や出前授業、貸出教材など各館の特色を生かした教育普及事業を実施しています。  
詳細は各館担当者までお気軽にお問い合わせ下さい。

- 県立美術館 学芸課普及担当  
電話（〇五五・二二八・三二五八）
- 県立博物館 企画交流課  
電話（〇五五・二六二・一二七八）
- 県立考古博物館 学芸課  
電話（〇五五・二六六・三八八二）
- 埋蔵文化財センター  
電話（〇五五・二六六・三〇一六）
- 県立文学館 学芸課教育普及担当  
電話（〇五五・二三三・八〇八〇）
- 県立科学館  
電話（〇五五・二五四・八一五二）

県立美術館、博物館、考古博物館、文学館では、小・中・高校生の常設展・特別（企画）展観覧料は無料です。